



発行
 矢部川をつなぐ会
 HP http://www.yabegawa.net/
 Blog http://yabegawa.jugem.jp/
 発行責任者: 松富士将和

事務局 / 山村塾・小森
 〒834-1222 八女市黒木町笠原
 9836-1 えがおの森内
 山村塾 気付
 TEL / 0943-42-4300
 mail / info@yabegawa.net

第7号

～矢部川新聞は「山から海まで未来につなぐ 矢部川をつなぐ会」が発行する流域の情報誌です～



「夏休み前に復旧した宮野公園」
…子どもたちの喜ぶ顔が見える様だ。



「夏休みになったのにまだ工事が終わらず
使えない船小屋中ノ島公園」
…例年大賑わいの水泳場には誰もいない。

**水害1周年を
迎えた矢部川は**

大岩が2度「ゴロンゴロン」と転がらないと梅雨が明けない。矢部川には、こんな言い伝えがある。それが、今年早い梅雨明けで大岩が転がることも無く、皆ホッとしている。特に安堵されたのは復旧工事関係者だろう。水害1周年の7月13日と14日に矢部川を巡ってみた。復旧状況は、下流域を除くと半分も進んでいなかった。

(八女市)災害復旧室資料・6月30日現在によれば、公共土木施設災害復旧事業(市道・河川)609

**景観に配慮した
復旧事業を願う**

河川の災害復旧に関する予算制度を表1で示す。H24年水害に関しては矢部川・沖端川流域で19.5億円の河川激甚災害特別緊急事業が行なわれる。

箇所、65億5千万円、進捗率33.8%。農地・農業用施設災害復旧事業(畑・田・井堰・水路・農道)464箇所、20億3千万円、進捗率24.6%。林道施設災害復旧事業63箇所、7億6千4百万円、進捗率88.9%。合計1336箇所、93億4千5百万円、33.1%)

私たちは、1日も早い復興を願いつつも、景観を守る立場から環境に配慮した復旧事業の推進を願ってきた。しかし、現状は必ずしもそれに沿っているとはいえない状況にある。復興事業関係者ももと流域住民の声を聞き、地域環境に即して事業に取り組まれることを願うものである。

矢部川水害1周年を迎え、矢部川新聞水害特集号は、矢部川に詳しい識者・やべがわびとの座談会を載せ、矢部川の歴史から学んだ「景観に配慮した復興」を提起している。どうぞ、皆様の感想・ご意見をお寄せ下さい。

河川激甚災害対策特別緊急事業の動き(効果発現)

激特事業とは、洪水や高潮等により大きな被害が発生した地域において、再度災害防止を図るため、概ね5カ年で、緊急に河川改修を行う事業です。

【土砂災害箇所の復旧】
人命・財産の保全や営農、物流等の再生に甚大な被害を与えることと見込まれる渓流には、景観の配慮や県産材を活用した治山・砂防えん堤等を整備する。

表1 河川の災害復旧事業 (内閣府防災情報のページより)

対象	種類	会計区分	略称	事業名
河川事業	補助	一般会計	単災	河川等災害復旧事業
			一定災	河川等災害復旧事業
			関連	河川等災害復旧事業
			助成	河川災害復旧助成事業
			小川	特定小川災害関連環境再生事業
			特関	河川等災害特定関連事業
	治水特会	一般会計	災特	河川等災害関連特別対策事業
			復緊	河川災害復旧等関連緊急事業
			河川激特	河川激甚災害対策特別緊急事業
			直轄	治水特会
関連	直轄河川等災害関連事業			
復緊	直轄河川災害復旧等関連緊急事業			
河川激特	直轄河川激甚災害対策特別緊急事業			

矢部川源流・流水群記

世界愛樹祭コンクール特別顧問 椎窓 たけし

私宅の裏手は、日向神々湖湖畔、そして旧飯干小学校跡地、現在は、「夏草や・・・」ともいいたくないような広場である。周辺に柵の役をしているのはサザン力の並木、冬されの季節には過疎寂寥の風渡る私の散歩道に、紅色の花弁は、なにやら昔の恋路を想わせ、いくらか心を慰留する。そのような日が過ぎて春遠からず、ダム湖畔の千本桜の蕾もふくらみ、裏手の広場では、恒例の「矢部しゃくなげ祭」の準備が始まり、苗木類が運びこまれて、年に一度の賑わいとなる。

このイベントはかなり知れ渡って、年々都会からの参観、来客が増したかのようである。しかし、四月の黄金週間が終われば、閑散の広場に帰るのが通例である。

だが、今年は違った。広場にはクレールン車、トラックが幾台となく入りこみ、ダム周辺に漂着の流木集荷場と変わっている。

戦後十年あたりまでは、スギ林は高価に取引されたが、高度成長期に入ると反比例、スギの森林は見捨てられてしまった。お国も間伐賃金までは補助金を出すが搬出までは面倒を見ない。泣き寝入りのスギ放置材を、豪雨が洗いだしてくれた。この漂着、流水群の山積を見ていると、もし、日向神ダム建設を徹底的に反対したとすれば、八女中心街、矢部川下流域は、流水群の襲来に壊滅したのではないかと想うのである。

泣き泣きダム建設に承認のハンコを押した親父たち、そして陽あたりの悪いスギの山かげに移住した一家は複雑な思いでこの流水群を見る。

図1 矢部川流域図 矢部川は、幹川流路延長61km、流域面積647km²の一級河川です。×は決壊箇所



「景観に配慮した復興を考える」講演会

日時 12月22日(日) 13時～17時
 ところ 八女市おりなす小ホール

基調講演
 馬場紘一(八女市景観審議会委員長)

講師
 中村周二(川内川流域連携ネットワーク代表)
 金子好雄(東海大学環境工学研究室・准教授)
 朝廣和夫(九州大学緑地保全学研究室・准教授)

詳しくは、ホームページ・ブログでご覧下さい。

【編集後記】
 やべがわびとによる座談会は、内容いっぱい、六ページに収めるのに苦労しました。水害から1周年の7月には何としても発行したい、いろいろのご協力頂き、何とか発行できました。感謝！

矢部川豪雨水害座談会 矢部川の再生について語る

日時 2013年6月8日
場所 八女市黒木町四季彩館

- 出席者
- 加藤仁美 環境建築家・加藤仁美環境デザイン研究所 前九州大学大学院教授
 - 古賀邦雄 古賀河川図書館館長
 - 小森耕太 矢部川をつなぐ会事務局長・山村塾 馬場紘一 八女市景観審議会委員長・技術士(建設部門)
 - ゲスト発言者
 - 古賀久隆 柳川市観光ガイド
 - 福島敏彦 福岡県林業技術者連絡会会長
 - 工藤 徹 NPO法人 有明会代表
 - 司会
 - 松富士将和 矢部川をつなぐ会代表理事



風景会談座

文化的景観と自然景観
松富士…今日は矢部川の災害から一周年が間近に迫りましたので、一周年記

念の第7号の矢部川新聞を出すに当たり、この矢部川の再生について、特に石橋とかそれから堰ですとか、あるいは廻水路といった優れた景観がいっぱいの矢部川の景観の保全という話について皆様のお話を頂きたいと、この座談会を企画しました。



松富士将和

どうしたら良い矢部川づくりが出来るかという

ようなお話を、皆様から頂きたいなと思っ



馬場 紘一

馬場…この笠原川を少し

馬場…この笠原川を少し遡った川筋に流れ込む沢に、関屋橋という人ひとりがやと渡れるほどの眼鏡橋がありました。その橋が今回の豪雨で壊れて、アーチ部分だけが残っていたのですが、先日そのアーチ部分も壊れてしまいました。例えば、そういうものを、現地では復元できないので、どこかに移設して復元したらどうでしょう。どういう風に対応するか、よかつたらご意見を聞かせていただきたいと思うのですが、地元の小森さんのご意見は？

小森…関屋の眼鏡橋ですよ。すぐそこにあるので、明日お時間ある方見に行けたらいいんですけど。その眼鏡橋の下に家が二軒位あつてですね、その方々が橋にゴミとかが引つかかって自分達の家屋に水が来たつていうので、是非どうにかして欲しいつていう風



黒木町関屋橋

完全に流失、関谷橋もアーチ部分を残して壊れ、その後、そのアーチ部分も壊れてしまったんですね。小森さんの山村塾にでも移設復元されてはどうでしょう。今回の災害復旧における景観保全のシンボルということ。この眼鏡橋は明治中期の非常に古い橋でした。

自然景観に配慮した事例に学ぶ

松富士…そういつたことと、それから復旧がらみの一つの事例だと思うのですが、例えば廻水路もずいぶん壊れていますね。加藤先生は色々現地を回って見ていただいたと思うんですが、廻水路とか石橋も含めてのご感想は。



加藤 仁美

加藤…実際こちらに来てもびつくりしたんですけど、至る所が崩れもありません。私は矢部川の整備計画の委員会に出たので、堤防の話とか、がけ崩れとか、河川や流域の全体的な話として考えていたのですけれども、確かに自然の景観だけじゃなくて、そういう文化的な景観、人が今まで長い間築いてきたその景観というの、ずいぶん被災してしましたね。廻水路は全部見て廻りましたが、左岸がダメージが大きく、堰も唐ノ瀬なんて全部壊れてしましたね。

松富士…ええ、全壊ですね。加藤…はい。委員会では、柳川の越水した所だとか堤防が壊れた所とかそういう話が多かつたんですけど、その時にやはり上流側でも色々起こつているので、そういう文化的なものも関心を持って欲しいという事は言ったんですが、それで具体的には廻水路



コンクリート玉石乱積護岸

路なんかもどかがどうあるとかいうのは、やはり図面上でもちゃんと明示して考えないといけないと思いますね。

それと、何かコンクリート化つていうか急いでいるなつていうのが全体の印象です。だから時間をかけて、例えば昔のように土羽(盛土工事における法面)の堤防をきちんと作るという風

加藤…更に気になったのは、石垣とかがまだ残っているところとかがあるんですよ。それがバラバラつと壊れて川の中に有るんですけれども、その辺を修復するのに、コンクリートのパネルに石を入れるという張りぼてなんです。そういうつたものを使って護岸しているのです。それだつたらいつそのことコンクリートの方が素直であるという感じでした。だからやっぱ声を上げたほうがいいですね。

小森…いま、河川の護岸の改修が、小さな区間で何箇所も行われているんですが、おつしやるような玉石をコンクリートで張り合わせているというやりかたが多いですね。松富士…我々が声を上げ

歴史から学ぶ矢部川の水害

松富士…そういうつたことも踏まえて、河川事務所、河川関係のOBでもあるし、河川図書館として色々本も集めていらつしやいます古賀さん、ご意見いかがでしょうか。



古賀 邦雄

古賀(邦)…私、久留米で古賀河川図書館というのを開いています。河川の本を二万冊位所蔵して、全国から閲覧、貸出を行つています。それで矢部川を歴史的に見て欲しいなと思うのは、大正10年の大水害、昭和28年の大水害、平成2年7月の水害と今回の水害を並べて、それぞれの水害がどう

古賀…それと、何故今回はこれだけの被害が起きたのかという原因ですね。要するに矢部川流域、笠原川にしても星野川にしても、その戦後どういう形で地域が発展したかという点と、例えばお茶畑の開発とか色々な開発で、流域がどう変化していったか。そういうことも考えながら、馬場さんが言われたように、どうしたらいいかというのを、地域の方と行政も含めて、色々な形で議



筑後広域公園遊水地

(橋大成ジオテック)

論された方がいんじゃないかと思つています。それで先ほどの川内川は、虎居地区が環境と治水のための改修をやっています。それは地元の人と九大の島谷幸宏先生、川内川河川事務所が入つて三者と、コンサルタントも入つて色々な模型実験も入つて、結構緻密にやっています。見学されるならば川内川が一番良いのではな

古地図に学ぶ遊水地の役割

松富士…中流域の宮野公園、筑後広域公園などは遊水機能を持たせた公園になっています。堤防決壊寸前の箇所が沢山あったのに、破堤箇所が少なかったのは、この遊水機能と、洪水のピークが有明海の干潮時だったことが幸いしました。古賀(久)…柳川でガイドをしております古賀です。いまおつしやつた筑後広域公園の中ノ島公園南側が放水路になっています(資料を掲示する)。この辺りは河口から殆ど標高差がなく流れの勾配も緩やかです。大洪水の時は下流の沖端川も矢部川も本

当に溢れる位の堤防です。すれまで満タンになり、両岸に相当の水圧がかかります。昔大洪水のときは土手から水が漏れていた

そうなんです。筑後広域公園のすぐ下にある沖端川の行基橋というところになり流木が引つかつて水位が上が

り、本郷の土手に圧力がかつて決壊し、それから中山の立花公園のところになります。あの辺りもともと土手が弱いところ

のところが遊水地への流入口となつて空いています。そして土手が低くなっているんです。



古賀 久隆

馬場…霞堤ですね。古賀(久)…沖端川に一度にたくさん水が行かないように、昔からここに遊水地を設けられています。これは現地に行くとそのまま残っています。全くこの敷地内には人家は建っていません。江戸時代の終わりの頃の安政6年の川絵図にはちゃんと載っています。先人の知恵に感動します。

平成24年災害は、脚部喪失型

松富士…今回被害に遭った所というのは、杉の植林が非常に多い地域で、この杉は九電の電柱用に戦後植えられたものだということも福島先生の講演で学びましたが、災害との

関係などについては如何でしょうか。



福島 敏彦

福島…福岡県における大きな災害というのを拾ってみますと、昭和19年には瀬戸内海周辺の行橋付近の災害で、これは崩壊源が上部にあつて川の方に流れ落ちたという災害です。昭和28年の災害は、特に福岡県では筑後川あるいは矢部川水系に多く被害が発生したということ

で、これは樹枝状崩壊と言ひまして、山の上の方が壊れて、それが谷を伝って川に流れる流れ口までが全部やられてしまったという土石流災害ですね。昭和38年の早良付近災害も樹枝状の崩壊。昭和47年は篠栗から直方にかけての災害で、ヒノキ林を中心とした地域での根倒れ、いわゆる山地そのものの土壌がある程度液化化した状態で木が倒れていったというものです。平成2年の矢部川の災害は、下流の辺春川、白木川の方が上流より多かつ

たのですが、両支川とも増水による河川筋の崩壊です。今度の平成24年は、脚部喪失型というの、河川を中心に脚部を喪失することによってその上が壊れてくるというものです。そして、降雨量の割には山地の崩壊は、極めて少なかつたという特徴があります。それで木が災害を守つたんじゃないかと言われては、基本的にはあるポテンシャルを過ぎると形あるものは全て壊れるという立場を取つておるものから、ちよつと違うかなと思ひます。まあ特にこの笠原川や星野川は脚部喪失型の崩壊が凄く発生したという事です。これが昭和28年レベルの山の若い木の状態だったら、もつと、山岳斜面が壊れていたんじゃないかと思ひます。加藤…脚部崩壊ってどういう漢字なんですか？

加藤…脚部崩壊ってね、足を拘束すること、脚というのは河川です。河川の河岸浸蝕が要因で斜面崩壊が発生しているという事です。たのですが、両支川とも増水による河川筋の崩壊です。今度の平成24年は、脚部喪失型というの、河川を中心に脚部を喪失することによってその上が壊れてくるというものです。そして、降雨量の割には山地の崩壊は、極めて少なかつたという特徴があります。それで木が災害を守つたんじゃないかと言われては、基本的にはあるポテンシャルを過ぎると形あるものは全て壊れるという立場を取つておるものから、ちよつと違うかなと思ひます。まあ特にこの笠原川や星野川は脚部喪失型の崩壊が凄く発生したという事です。これが昭和28年レベルの山の若い木の状態だったら、もつと、山岳斜面が壊れていたんじゃないかと思ひます。加藤…脚部崩壊ってどういう漢字なんですか？

加藤…それでストーンと落ちてますよね。大規模に落ちてるところもありますよね。あの笠原の霊巖寺の前とか星野もそうです。福島…そうです。普通の山崩れというのは、縦断系と横断系の凹部の地形に、湧水口が出来てきて、何らかの刺激があつて、そこが泥流化してどんどん流れて、今度は谷まで荒らして、下まで落ちるといのが、いわゆる一般的な山崩れの崩壊なんです。で、そういう箇所は、今度ほとんどなかった。それが特徴です。松富士…もうひとつ古賀さんから、以前私が聞いたのが、平成2年でしたか、阿蘇一の宮の水害と、ここが一緒の日に連動して起きて、また今度も同じような災害で、それは、地形的にも似て、雨の降り方も似ている…ということなんですか？

古賀(邦)…そうでしょうね。平成2年7月2日が阿蘇の水害。そしてこちらも水害。同じ日なんです。福島…阿蘇の一の宮の災害のときはですね、深層風化した、2mくらいの深さでみなクリーピング(徐々に劣化して流れて落ちてきているんですよ。それで、当時の新聞等によると、あれは針葉樹だから壊れたんだとか言われていましたけれども、深さ2mクラスの浸蝕になってくると、広葉樹であろうが、針葉樹であろうが、これはまったく関係の無い話になるんです。ある深層風化したところから、ある瞬間に何らかの衝撃で泥流化したものがバンと壊れるわけですから。黒木町笠原地区の災害・崖崩れ



小森 耕太

小森…ちようど家の前が笠原川なんですけれど、14日の朝は岩のぶつかる音で目が覚めました。5時くらいだったと思ひます。今まで見たことが無いような水位になっていました。そして、それからすぐに避難を開始して、消防団員でもあつたので地域の方にも呼びかけて回りました。そのころはみんな「これはすごい」といひながら避難はしていたけれども、そこまで深刻には思つていなかったですね。

松富士…ここに来る前に上流のえがおの森(注・黒木町笠原)まで行つてきたのですが、がけ崩れの状態はあそこが一番ひどいんじゃないかと改めて思ひました。もうひとつ、崩壊したところが小規模の林道をいっぱい作つて開発したところ、あるいは茶畑などが多いよということも聞いたのですが、その辺のことはどうですか？

雷と一緒になつているような、「バリバリ」という崩れるような音がして、電線が揺れたりもしていました。地響きもずっと続いていました。



笠原の崖崩れ

それから、林道や茶畑に関しては、黒木の支所に先に斎場がありますけど、そこからずっと山ぞいに新しい林道が出来ています。災害後に通りましたが、道に大きな岩がゴロゴロころがっていて、道路が川になつて流れてきたんだなという痕跡があちこちありました。林道の側溝や暗渠で谷に水を流す機能が、今回の様な雨の量を想定していなかった。そのため、林道が溜つて逃げ切れない水を局所的な谷に運び込んで、そこから山が崩れているというのは何箇所もありました。

これは建設関係の林道を作つた現場の作業をされた方が悔やまれていました。茶畑については、基本的にはいま保安上の関係で山の場合には1ha以上の開墾ができないようになっていて、実際は1ha以上に開墾されている場所もあつて、山の尾根部に茶園を造成しているところもあるけど、どうもなつていない部分もあれば、崩れてしまつていてる部分もありました。

さらけに今日の新聞に載つていた星野の「まだ県道は通れません」というがけ崩れで通行止めの箇所。そこは、県道の山側急斜面に林道を通したところ。もともと山腹斜面というの、安定勾配の限界ぎりぎり状態、即ち崩落寸前で保たれている訳です。その斜面を人間が突くものだから、豪雨のときに、その人為的改変行為が災ひして、斜面がガサッと崩れる。自然の理といえど自然の理ですね。災害後の航空写真を見比べると明らかです。前号の矢部川新聞にも書きましたが、山間地の経済活動を促進するため道路や開墾を大規模に整備するか、防災や景観保持のために開発をある程度制約するか、その兼ね合いは非常に難しいところですね。



星野川真名子の崖崩れ

馬場…このことについては「くるめウス」で航空写真を使って災害直後に講演をしました。この林道が水路の役割をして、それが原因でここが崩れたとかです。星野の大規模地すべり箇所は、大規模に茶園造成された所です。

廻水路とモタセ

加藤…廻水路は下流域のために作られたんですけれども、一方で山間部の防災の面でもある程度役立つっているんだなと今回

改めて認識しました。廻水路が沢からの流水路を受け止めているところがあつたら直接的に水が沢を流れ下つて矢部川に行つていくので、廻水路がひとつのバリア的な役割も果たしていたんだなと思ひました。馬場…廻水路とモタセですね。加藤…棚田や堰も、モタセでもあると思ひます。少しづつ貯流量を分け持つていく。下流のクリークにそういう意味があるのと同じですね。あるシンポジウムで、脚に溜まつた流水が河川をせき止めて周囲に洪水の被害をもたらしたことが話題になり、「橋が邪魔だ」、「それなら橋を取り除こう」という発言もありました。しかし、橋ごとに少しずつせき止めることによって小さな洪水を起こしたにしても、下流にどつと大きな被害を起こさないとか、そういうモタセの役目もあつたのではないかな、と思つたんですね。だから、橋を取り除こうという話はあまりにも短絡的だ

と感しました。色んな面で見ないといけないくて、モタセという考え方には色々なところの意味があるんだなと再認識しました。自然景観・自然環境に配慮した復旧は難しいか

松富士…1年近く過ぎて復旧の具合、工事の方法、進め方も分かつてきた。というところ、今後どうしたら良いかの提案をいたしたいのですが。馬場…景観に配慮した復旧工事は難しいのでは？というお話がありました。これは、まず災害復旧制度を良く知ることが大切だと思ひます。こういう大災害になりますと、抜本的にその川を改修する災害復旧制度があるんです。激甚災害対策特別緊急事業や助成事業・関連事業と言われている制度。多分、笠原川等はこれらの事業制度で実施されるんですかね？

化、風習などの事も教示出来ませんか。

小森：馬場さんに伺いたいんですけど、結局こういう大規模な災害が起きたときに、景観だとか生態系だとか、普段は大事だといっているんですけど、二の次三の次になってしま

うんですかね。地元の人たちが、特に安全面とかス

河川災害復旧に関して、東日本大震災の災害復旧を受けて、改めて、国土交通省から指示がなされて



馬場：ただね、工事がスタートしてから外部の住民からこういう計画で実施してくれと提案しても聞

望を受け入れて、現況通り山にぶつかって流れる計画に手直しされた事例もあり

場だとか、お祭りやいつも川に降りている神聖な場所とか、そのような人と川とか、そのような人と

治水と環境は一致する

古賀（邦）：いま九大の島谷先生から色々教えてもらって

しかし、平成2年、矢部川支川辺春川の災害復旧事業で、川の流れを直線化する計画を、地元の要

な指導をするので、全国にそういう先生がおられるから、水害が起こったときは現地に行つて、治水と環境とを一致するようない

馬場：さつき景観が外に追いやられていたような話

古賀（邦）：河川法の第一条にも「地域住民の話を聞きなさい」というのも法律

ボランティアのこと

松富士：小森さんは、事務

務所があつたえがおの森が避難場所になり、ボランティアの拠点にもなつて



小森：ボランティアはですね、7月の22日から3月末まで

町村に今まで関わっているボランティアが3000人

松富士：今日の話からわかったこと、ひとつは流域

のモデル検証しようということ、整理をしようというところ

地元でお米を作っているおじいちゃん、一番の悩みは、うちの田んぼに水が来

ボランティアの人たちが言うのは、行政と社協が立ち上げたセンターと

観光のこと、蜚のこと

松富士：一方で観光の話なんです、八女市長は、

花巡廻水路を歩く景観ツアーを企画し協力依頼をした

また、蜚を呼び戻すことは、観光でも、景観保全

馬場：先ほどお話しした白木川と辺春川の平成2年

災害復旧では、改修直後はホテルが極端に少なくな

だから災害復旧と同時にホテルが棲める川にという

馬場：ホテルがサナギから孵化することを知らない

工藤：私はNPO有明会ですけれども、筑後大堰



福島：一級河川は三面張り禁止になつて

先ほどから三面張りという話もありましたが、柳川はご存知だと思います

工藤：もう一点、圃場整備で水路が

馬場：農水省所管の用水路でしようか

柳川をつくりのやりかたで水路を作られています

柳川の堀割



の木はドンドン切られているんです。

というところで、皆様のお話をまとめさせていただきます

